

登録コード	MA710200	開講年度	2026			
授業科目名	看護学研究				担当教員	下里 誠二 他
英文授業名	Nursing Research				副担当	五十嵐 久人・芳賀 亜紀子・徳武 千足・北川 孝・佐藤 奈保
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	集中・不定期	対象専攻 / 学年
講義室	保健学科 2 2 1 講義室		授業形態	講義	授業科目区分	(周麻酔期) 必修科目
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS 2 6カリ(保健学), MS 2 5カリ(保健学), MS 2 4カリ(保健学), MS 2 3カリ(保健学)					
	【研究科共通】医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。				看護学における研究の意義と研究デザインを理解し、研究課題を明らかにするための適切な研究方法が選択できるようになる	
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。				看護学分野において臨床へ応用可能な研究のデザインができる	
(2)授業の概要	看護における研究の意義と独自性，パラダイムによる前提の違いを理解した上で，研究課題に適合する看護理論もしくは概念枠組みを用いた実証主義的な研究デザイン，あるいは現象そのものに迫ろうとする自然主義的な研究デザインにおいて，適切に研究方法を選択する能力を身につける。 クリティークを通して，研究計画，実施，分析，記述，論文作成のそれぞれの段階で，信頼性・妥当性もしくは信憑性・転用可能性などを高めるために研究者に求められる事柄を明確にする。					
(3)達成目標（一般学習目標 G I O）	看護における研究の意義と独自性について理解すると共に，研究課題を明らかにする研究方法について，適切な選択ができるようになる また，得られたデータの適切な分析方法について選択できるようになる					
(4)達成目標（個別行動目標 S B O s）	量的研究の種類や特徴を理解し，その進め方について述べるようになる。 ・研究デザインについて理解できるようになる。 ・量的研究において得られたデータの分析方法について，適切な方法を選択すると共に，その内容について述べるようになる。 ・科学的な論文作成方法について述べるようになる。 ・質的な研究の種類とその背景を理解し，分かりやすく説明できるようになる。 ・質的な研究課題とその課題に適した研究の種類を選択するにあたり，その根拠を述べるようになる。 ・質的な研究の特徴を説明できるようになる。 ・量的な研究の各方法の概要と手順を説明できるようになる。 ・研究課題と研究遂行上の条件に応じ，適切な調査・分析方法を選択できるようになる。					
(5)授業計画	----- （下里 誠二 / 2 回:4/13,4/20） 看護という現象をモデルないしは概念枠組みを用いて科学的に分析する看護研究について、研究の原理原則について学ぶ。論文を作成するにあたっての国際ルールをもとに文献を検討し、研究論文作成のための基礎的な方法を様々な研究方法の看護領域への応用について論述する。 （北川 孝 / 2回：4/27，5/1） 特定のテーマについて既存研究を幅広く収集・整理し、「どのような研究が、どこまで、どんな方法で行われているか」を俯瞰的に明らかにする文献レビューの方法であるスコーピングレビューについて学修する。 （佐藤 奈保 / 5 回:5/18，5/25，6/1，6/8，6/15） 看護学研究で用いられる質的研究法について，その方法の選択における本質的な理解を深めるように学修する。研究の遂行に際して重要な問いの立て方、分析上の注意点など学修する。講義、学生によるプレゼンテーション、分析演習等を通して、質的研究実施におけるプロセス全体について理解できることを目指す。 （五十嵐 久人 / 5 回:6/22，6/29，7/6，7/13，7/27） 看護学と疫学研究との関係を視野においた研究課題と，量的研究方法との関係を論じる。 研究課題に適した最良のデータ収集方法ならびにデータの特性に適した分析方法をどのように選定し，どのように結果を解釈するか論述する。 (芳賀 亜紀子,徳武 千足 / 1 回 5/11) 介入・実験研究における研究計画からプレテスト・データ収集方法の実際について、演習を通して学ぶ					
(6)授業の進め方	下里担当分は，一部講義，一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。 佐藤担当分は，担当者による講義，担当学生のプレゼンテーション・ディスカッションなどを行います。五十嵐担当分は，担当学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める予定です。芳賀・徳武担当分は講義と演習を行います。 この科目は複数の教員により担当します。学部講義、実習等の関係で日程を変更することがあります。各教員の初回担当日時よりも前に必ず担当教員にメールで連絡し日程を確認、必要時調整してください。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	授業の際に次回のための課題を出します。課題の内容をプレゼンテーションやディスカッションに利用します。 授業前後には必要な時間を予習と復習にあててください。 Web会議システムによる遠隔授業を行う場合には、事前にアクセスID/パスワードを通知します。					

(8)成績評価の方法	下里：看護研究の理解度や姿勢・考え方等を総合的に評価しますプレゼンテーションの内容（80%）、ディスカッションの内容(20%)。 平林・五十嵐・芳賀・徳武：演習での報告，セミナーでの討議への参加などで総合的に評価します。全体の成績の配分は下里、平林、五十嵐担当分各30%、芳賀・徳武分10%とします。
(9)成績評価の基準	レポート、プレゼンテーションについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時相談に応じます。事前にメールでご連絡ください。 下里 誠二 研究室：保健学科中校舎4階 メール：sshimos@shinshu-u.ac.jp 佐藤 奈保 研究室：保健学科中校舎 メール： 五十嵐久人 研究室：保健学科中校舎4階 メール：higaras@shinshu-u.ac.jp 芳賀 亜紀子 研究室：保健学科中校舎3階 メール：akihaga@shinshu-u.ac.jp 徳武 千足 研究室：保健学科中校舎3階 メール：ctokuta@shinshu-u.ac.jp
【テキスト，教材，参考書】	随時，紹介します。なお，手元にあると良いと思われる参考書は，以下のとおりです。 D.F.ポリート,C.T.ベック,近藤潤子監訳.看護研究-原理と方法.医学書院,2010 アメリカ心理学会著(APA),前田樹海他.APA論文作成マニュアル第3版.医学書院,2023 前田 樹海,江藤 裕之.APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版,2023,医学書院 中山健夫、津谷喜一郎編，臨床研究と疫学研究のための国際ルール集，2008，ライフサイエンス社 中山健夫、津谷喜一郎編，臨床研究と疫学研究のための国際ルール集PART2，2008，ライフサイエンス社